

(2) 生涯学習

生涯学習分野については、平成 28 年度から第 5 次千葉市生涯学習推進計画に基づき各種施策を進めています。なお、第 5 次千葉市生涯学習推進計画は平成 30 年度末に中間見直し（P 65、66 参照）を行ったため、見直し後の計画に基づき、自己評価を行います。

千葉市生涯学習推進計画の目標

市民が自ら学んだ成果を生かし、
活力あるコミュニティを形成できる環境づくりを進める
～学びを通して地域がつながるまち 千葉市～

「成果指標」における「達成状況」の記載について

各指標について、令和元年度末実績値の状況を 3 段階に分類します。

区分	説明（成果指標の達成状況基準）
◎	R1 末実績値が最終目標値（R3 末目標値）以上であるもの。
○	R1 末実績値が中間目標値（H30 末目標値）以上であるもの。 ※R1 末実績値が最終目標値（R3 末目標値）以上であるもの（区分◎）を除く。
×	R1 末実績値が中間目標値（H30 末目標値）未満であるもの。

※数値データの出典などについては、各成果指標の右下に示しています。

「アクションプラン」における「進捗状況」の記載について

各計画事業について、令和元年度末の状況を示します。

区分	説明（計画事業の進捗状況基準）
達成	R1 末実績が最終目標（R3 末目標）以上であるもの。
順調	計画に対し、概ね計画通り進捗しているもの。 ・定量的に事業量を測れる事業は、中間目標（H30 末目標）以上であり、かつ、最終（R3 末）事業量に対し 7 割以上進捗しているもの。 ・その他の事業は、目標事業量からの遅延・乖離が生じていないもの。
遅れ	計画に対して事業進捗が遅れが出ているもの。「継続」で事業規模を縮小したもの。 ・定量的に事業量を測れる事業は、中間目標（H30 末目標）未満である、または、最終（R3 末）事業量に対し 7 割未満の進捗であるもの。 ・その他の事業は、目標事業量からの遅延・乖離が生じているもの。
休止	事業を休止し、次年度以降に再び実施する予定のもの。
中止	事業を中止し、今後も実施する予定のないもの。

【参考】中間見直しの概要

1 計画の見直しにあたって

(1) 見直し実施の背景

第5次千葉市生涯学習推進計画は、平成28年度から令和3年度までの6年間の計画期間としており、変化への対応と実行力のある計画とするため、計画の中間年度での見直しを行うこととしています。

計画期間の後半3年間の見直し後の計画に沿って事業を推進するために、過去2年間の実績を踏まえ、平成30年度に計画の見直しを行いました。

(2) 関連する計画との整合性

第5次千葉市生涯学習推進計画の見直しにあたっては、本計画と関連が深い、国の「第3期教育振興基本計画」や、本市の「第3次実施計画」、「第2次千葉市学校教育推進計画」の内容も踏まえ、これらの計画との整合性を考慮して見直しを行いました。

2 計画の見直しの方向性

(1) 成果指標について

ア 実績評価について

平成28年度末及び29年度末の現状値を基に、評価及び分析を行いました。平成28年度末及び29年度末の現状値を算出していない2項目については、生涯学習関係団体アンケートを実施して平成30年度の現状値を算出し、分析を行いました。

イ 見直しについて

アの評価検証を基に、必要に応じて目標値の変更を行いました。

(2) アクションプランについて

ア 見込及び実績評価について

平成30年度末及び令和3年度末の事業の見込値、進捗状況を算出しました。また、取組状況について評価検証を行いました。

イ 見直しについて

アの評価検証を基に、必要に応じて目標値の変更、アクションプランの追加を行いました。

3 見直しを行った成果指標・アクションプラン

(1) 成果指標について

成果指標全 10 項目のうち、計画策定時の目標値と中間見直し時の現状値が大きく乖離することから、目標値の変更を行ったものは 5 項目です

(2) アクションプランについて

ア 目標値の変更

アクションプラン全 41 事業 56 項目のうち、目標値の変更を行ったものは 6 事業 8 項目です。

イ 新規追加

新規追加したアクションプランは 5 事業 5 項目です。また、既存の事業に項目を追加したものは、3 事業 6 項目です。

1 学習活動のきっかけの提供

1-1 生涯学習の普及啓発

施策の方針

- 市民が学びの楽しさ、大切さに興味・関心を持ってもらえるよう、様々な機会・手法を活用して情報を発信し、学習のきっかけづくりにつなげます。
- 国・県・大学等、市以外が提供する学ぶ場についても積極的に情報発信し、学習機会の拡大に努めます。
- 学習に関する各種相談を受け付けることで、スムーズな学びはじめ・学び直しをお手伝いします。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	当初	目標		各年度の実績				達成状況
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
1	生涯学習に関心のある市民の割合	76.9% ※1	83.0%	90.0%	80.5%	75.9%	76.3%	73.6%	×
		WEBアンケート (※2)							
2	生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合	56.4% ※1	25.0% ※3	34.0% ※3	19.3% ※4	22.0%	24.5%	27.8%	○
		WEBアンケート (※2)							

※1 平成 27 年度末現状値は、平成 26 年 9 月に実施した「インターネットモニターアンケート」の数値を使用。

※2 平成 28 年度末より、調査方法を「インターネットモニターアンケート」から「WEB アンケート」に変更。

※3 平成 30 年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※4 平成 28 年度末に調査方法を「WEB アンケート」に変更した際、設問内容を変更したため、当初と比べ平成 28 年度以降の数値が大きく変動している。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS や情報誌等各種媒体による学ぶ場と学ぶための情報提供や、生涯学習イベントを継続して実施しましたが、前年度と比較し、2.7 ポイント下降しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民ニーズに応えた各種事業を実施するとともに、SNS を活用した情報の発信や、情報誌やチラシなどの発行回数を増加することで、学習のきっかけづくりにつなげ、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS での発信や冊子・チラシなどの発行に加えホームページのリニューアルなど、生涯学習に関する情報提供の充実に努めたことにより、前年度と比較し、3.3 ポイント上昇しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を活用した情報発信の拡充、情報誌やチラシなどの発行回数の増加、公民館の掲示板の活用など、各年齢層の利用者に届くよう、様々な手法を活用した情報発信を充実します。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標			各年度の実績			
			H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	進捗 状況
1	学ぶ場と学 ぶための情 報提供の充 実	SNS 等の活 用、市以外 が実施する 講座情報の 収集・提供	実施	拡充	実施	拡充	拡充	継続	継続	順調
2	学習のきっ かけづくりと なる生涯学 習イベント の開催	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
3	eラーニン グの普及事 業の実施	eラーニング 普及事業の 実施	検討	実施	継続	実施	実施	継続	継続	順調

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、ホームページのリニューアル（令和元年8月）を行い、より見やすいものとなるよう努めるとともに、Facebook を使った講座情報の発信を行いました。また、生涯学習広場において近隣大学、社会教育施設等の講座や各種機関の実施する資格取得に関する情報など生涯学習情報を提供しました。 公民館では、市政だよりや公民館だより、チラシなどの発行により、学ぶための情報の提供に努めました。また、SNS（twitter、Facebook）を利用した情報発信を一部公民館で行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、今後も継続して、市民に届く情報発信、生涯学習情報の収集に努めます。 公民館では、今後も継続して、生涯学習情報を収集し、利用者が使いやすく、分かりやすい情報を発信します。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、まなびフェスタを開催し、気軽に生涯学習に触れる機会を提供しました。また、様々なテーマで各種講座を開催するとともに、上映会、コンサートなどを定期的に開催し、生涯学習施設に気軽に足を運んでもらうためのイベントを実施しました。 公民館では、生涯学習の意義や学びの楽しさを感じられる公民館文化祭を開催しました。 科学館では、様々なテーマで各種講座を開催しました。なお、科学・技術を身近に感じることができる総合的な科学・技術の祭典として、例年実施（1万人以上参加）している科学フェスタは、メインイベントが台風19号の影響で中止となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も「まなびフェスタ」や「公民館文化祭」、「千葉県科学フェスタ」といった生涯学習イベントを開催し、生涯学習の意義や学びの楽しさを伝える機会として、継続的に取り組みます。
3	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターにおいて、民間事業者（スクー）と連携して実施したオンライン動画学習サービスにより、1年を通してeラーニングに触れて学べる機会を提供しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続してオンライン学習サービスを提供します。

1-2 学習環境の整備

施策の方針

- 学びに興味を持った市民が学習活動をはじめるとあって、快適で参加しやすい学習環境の確保に努めます。
- ICT等の活用を通じた生涯学習施設の利用サービスの向上に努めます。
- 生涯学習施設等の保全・改修により、学習環境の維持・向上に努めます。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	当初	目標		各年度の実績				達成状況
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
3	市の生涯学習施設が5年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合	31.5% ※1	54.0% ※2	58.0% ※2	— ※3	— ※3	53.3%	— ※3	—
生涯学習関係団体アンケート									
4	生涯学習施設を年1回以上利用したことのある市民の割合	44.1% ※4	74.0% ※2	80.0% ※2	— ※5	73.1%	68.0%	73.5%	×
WEBアンケート(※6)									

※1 平成27年度末現状値は、平成26年11月に実施した「生涯学習関係団体アンケート」の結果を基に算出。

※2 平成30年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※3 「生涯学習関係団体アンケート」は各目標年度に実施のため、平成28・29・令和元年度は未実施。

※4 平成27年度末現状値は、平成27年1月に実施した「市民1万人のまちづくりアンケート」の結果を基に算出。

※5 「市民1万人のまちづくりアンケート」は3年に1回の実施のため、平成28年度は未実施。

※6 「市民1万人のまちづくりアンケート」の質問内容削除により、平成29年度から「WEBアンケート」により調査。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
3	・老朽化した施設の修繕、備品の交換を実施し、利用しやすい学習環境の整備を進めました。	・引き続き、各施設の修繕や備品の交換を計画的に実施し、利用しやすい施設となるよう環境づくりを進めます。
4	・職員の資質向上に努め、市民ニーズに合った各種事業を企画するとともに、学習環境の整備を進めました。その結果、前年度と比較し、5.5ポイント上昇しました。	・学習環境の整備を進め、市民ニーズに応じた各種事業を実施し、学習のきっかけづくりに努め、生涯学習施設の利用者増を図ります。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、中央図書館、市民総務課、こども企画課

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標			実績			
			H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	進捗 状況
1	生涯学習施設等の利用 環境の充実	生涯学習センターの施設稼働率	51.5% (H26)	54.0%	55.0%	58.2%	62.8%	64.7%	60.3%	達成
		公民館の施設稼働率(*調理室を除く)	45.2% (H26)	48.0%	51.0% (※)	46.8%	46.8%	45.8%	46.3%	遅れ
2	図書館サービスの向上	地区図書館の開館時間の拡大	—	1 館	1 館	0 館	0 館	0 館	0 館	遅れ
		分館における休日開館の実施	—	3 館	3 館	0 館	0 館	0 館	0 館	遅れ
3	子どもの居場所の確保	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	公民館の改築	犢橋公民館の改築	基本設計	H30 年 4 月供用開始	供用	建設中 (H29 年 10 月供用開始予定)	H29 年 10 月供用開始	H29 年 10 月供用開始 (H29 の実績再掲)	H29 年 10 月供用開始 (H29 の実績再掲)	達成
5	公民館の改修	冷暖房設備改修	3 館 (H26)	1 館 (H30 末までの累計)	4 館 (R3 末までの累計)	計 1 館 (H28:1 館実施)	計 2 館 (H29:1 館実施)	計 2 館 (H30:0 館実施)	計 5 館 (R1:3 館実施)	達成
		屋上防水・屋根改修	3 館 (H26)	6 館 (H30 末までの累計)	12 館 (R3 末までの累計)	計 4 館 (H28:4 館実施)	計 6 館 (H29:2 館実施)	計 9 館 (H30:3 館実施)	計 11 館 (R1:2 館実施)	順調
		トイレ改修	1 館 (H26)	6 館 (H30 末までの累計) (※)	14 館 (R3 末までの累計) (※)	計 0 館 (H28:実設計)	計 4 館 (H29:4 館実施)	計 6 館 (H30:2 館実施)	計 10 館 (R1:4 館実施)	順調

※ 平成 30 年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターの稼働率は、新型コロナウイルス感染拡大による利用自粛によって、前年度より 4.4% 下降しました。音楽スタジオのドラムセットを更新するとともに、食文化研修室の照明を LED 化したことから利用者の好評を得ています。 公民館の稼働率は、令和 2 年 1 月までの各月では前年度と比べて 1~3% 程度上昇していましたが、新型コロナウイルス感染拡大による利用自粛により、年間では 0.5% 上昇にとどまりました。施設・備品の老朽化対応やバリアフリー化等を進め、利用しやすい施設となるよう努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、利用者の意見を参考に、利用環境を整備するほか、夜間区分の利用促進を検討していきます。 公民館では、今後も計画的に施設の修繕を行い、利用しやすい施設とは何かという事を念頭に置きながら、どのような利用者の方でも気軽に利用できる環境づくりを図っていきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> 図書館が地域の「知の拠点」として豊かな市民生活や本市の発展に貢献できるように、実現したい図書館の未来像を描き、逆算する形で取り組むべき施策を示す指針として、新たな図書館計画「千葉市図書館ビジョン 2040」を策定しました。 平成 29 年 3 月に開館した「みずほハスの花図書館」において、休館日である月曜日の開館を実現しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな図書館計画「図書館ビジョン 2040（令和 2 年 3 月策定）」のロードマップ（案）を確定し、そのスケジュールに基づき、各年度策定する事業計画において具体化する施設整備に併せ、開館時間の延長や祝日開館の実現に向け取組みを進めます。
3	<ul style="list-style-type: none"> 信頼できる大人の見守りの中、自然の中で自由に遊ぶことができるプレーパークや、市民ボランティアが運営する「どこでもこどもカフェ」等の事業により、安心して活動できる子どもの居場所を確保することができました。 公民館では、「土曜ひろば」などの講座、一部諸室の自習室としての開放等に引き続き取り組みました。 	<ul style="list-style-type: none"> 「どこでもこどもカフェ」や「プレーパーク」、「土曜ひろば」など、子どもたちが気軽に立ち寄り、安心・安全に過ごせる地域の身近な居場所を引き続き提供します。
4	<ul style="list-style-type: none"> 利用者・関係者からの要望を受け、当初の予定を 6 か月前倒しし、平成 29 年 10 月に供用開始しました。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 冷暖房設備や屋上防水改修は、中長期保全計画に基づき進めています。 トイレ改修は洋式大便器への改造に特化して改修を進め、洋式便器の設置率を早期に向上させるよう前倒しして進めています。 	<ul style="list-style-type: none"> 既設公共施設の長寿命化及び効率的な保全改修は全国的な課題となっています。計画的な維持保全を行うための個別施設計画の策定を進めています。

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				
			H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	進捗 状況
6	中央図書館・ 生涯学習セン ター等の改修	中央図書 館・生涯 学習セン ターの改 修	中央監 視装置 更新 (H26)	アトリウム ガーデン屋 根防水	工事完 了済	実施設 計	H30年3月 工事完了	H30年3月 工事完了 (H29の実 績再掲)	H30年3月 工事完了 (H29の実 績再掲)	達成
				吊天井落下 防止対策	工事完 了済	実施設 計	H30年3月 工事完了	H30年3月 工事完了 (H29の実 績再掲)	H30年3月 工事完了 (H29の実 績再掲)	達成
		南部青少 年センタ ー・みやこ 図書館白 旗分館 受水槽更 新工事	—	実施設計、 工事	工事完 了済	—	—	—	—	—
7	コミュニティセ ンターの改修	外壁・屋 上防水改 修	工事2館 (H26)	—	実施設計 1館 (※1)	計工事0館 (H28:0 館実施)	計工事0館 (H29:0 館実施)	計工事1館 (H30:1 館実施)	計工事1館 (R1:0館 実施)	達成
		空調・熱 源改修	実施設計 1館(H26) 工事1館 (H26)	工事1館 (H30末 までの累 計)	実施設計 1館 工事1館 (※1)	計工事1館 (H28:1 館実施)	計工事1館 (H29:0 館実施)	計工事2館 (H30:1 館実施)	計工事2館 (R1:0館 実施)	達成
		劣化度調 査	—	2館 (H30末 までの累 計)	3館 (※1)	計2館 (H28:2 館実施)	計2館 (H29:0 館実施)	計2館 (H30:0 館実施)	計3館 (R1:1館 実施)	達成
8	千葉県科学 館リニューア ル(※2)	千葉県科学 館展示 リニューア ルの検討	—	—	検討	—	—	—	検討	順調
9	公民館への 社会教育主 事配置(※2)	公民館に おける社 会教育主 事資格取 得者数	—	—	12人	—	—	13人	15人	達成

※1 平成30年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※2 アクションプラン8「千葉県科学館リニューアル」とアクションプラン9「公民館への社会教育主事配置」は平成30年度末に行った中間見直しにより追加したアクションプラン。

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
6	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館・生涯学習センターのアトリウムガーデン屋根防水、吊天井落下防止対策は平成30年3月に完了しました。 南部青少年センター・みやこ図書館白旗分館の受水槽更新工事については、緊急性が低いとの判断から、改修が先送りとなりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者への影響を考慮しながら、効率的な施設改修を検討します。
7	<ul style="list-style-type: none"> 中期保全計画に基づき、計画的に施設改修を進めました。令和元年度は穴川コミュニティセンターの劣化度調査を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、計画的に施設改修を実施します。
8	<ul style="list-style-type: none"> 科学都市戦略の拠点としての機能を向上し、「科学都市ちば」の実現を進めるため、千葉市科学館リニューアルプランをまとめました。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に展示リニューアル実施設計を行い、令和3年度から開館しながら順次展示物のリニューアルを進め、令和4年4月にリニューアル開館します。
9	<ul style="list-style-type: none"> 職員の専門性を向上することにより、社会教育活動を活発化するため、公民館職員の社会教育主事資格取得を進めたことにより、資格取得者が2人増加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も社会教育主事講習に公民館職員を積極的に推薦し、資格取得者の増に努めます。

2 多様な学習機会の確保

2-1 郷土への愛着を深める学習機会の提供

施策の方針

- 郷土に対する理解と愛着を深めるため、地域の歴史や文化資源を生かした学習機会を提供します。
- 郷土の伝統・文化を適切な保護・保存方法により後世に引き継ぐとともに、ふるさと意識の醸成を図ります。

成果指標

文化財課

	指標	当初	目標		各年度の実績				達成状況
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
5	郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合	38.3% ※1	56.0% ※2	59.0% ※2	— ※3	55.7%	61.3%	57.0%	○
WEBアンケート(※4)									

※1 平成 27 年度末現状値は、平成 27 年 1 月に実施した「市民 1 万人のまちづくりアンケート」の結果を基に算出。

※2 平成 30 年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※3 「市民 1 万人のまちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施。

※4 「市民 1 万人のまちづくりアンケート」の質問内容削除により、平成 29 年度から「WEB アンケート」により調査。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
5	<ul style="list-style-type: none"> ・特別史跡加曽利貝塚や千葉市の礎を築いた千葉氏などを筆頭に、PR イベント等を継続的に実施しました。 ・前年度と比較し、4.3 ポイント下降したものの、郷土の歴史や文化財に対する市民の興味・関心は高まってきていると考えられます。 	より多くの方に満足いただける学習機会を提供できるよう、引き続き、郷土への理解を深める講座・事業の充実など関連するアクションプランの充実を図ります。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、文化財課、文化振興課

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標			各年度の実績			
			H27 末	H30 末 (中間)	R3 末 (最終)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	進捗 状況
1	加曽利貝塚 の特別史跡 指定	総括報告書 の刊行	総括報告 書の作成	総括報告 書の刊行	総括報告 書の刊行	総括報告 書の刊行	総括報告 書の刊行 (H28の実 績再掲)	総括報告 書の刊行 (H28の実 績再掲)	総括報告 書の刊行 (H28の実 績再掲)	達成
2	文化財の保 存・活用の 推進	ゆかりの 家・いなげ の改修	—	外壁等腐食 箇所修繕、 電気設備工 事	外壁等腐食 箇所修繕、 電気設備工 事完了	—	—	—	電気設備工 事実施設計	遅れ
		旧検見川無 線送信所の 修繕	屋上防水実 施設計	屋上防水及 び外壁補修 工事	屋上防水及 び外壁補修 工事完了	屋上防水改 修工事完了	屋上防水改 修工事完了 (H28の実 績再掲)	—	—	休止
		市民ギャラ リー・いなげ (旧神谷伝 兵衛稲毛別 荘)の改修	基本設計	耐震改修、 屋根防水改 修工事	耐震改修、 屋根防水改 修工事完了	実施設計	—	耐震改修、 屋根防水改 修工事	耐震改修、 屋根防水改 修工事完了	達成
3	郷土の理解 を深める講 座・事業の 充実	加曽利貝塚 など縄文時 代の理解を 深める講 座・事業	11 事業	13 事業	13 事業	13 事業	15 事業	34 事業	36 事業	達成
		千葉氏など 郷土の歴史 の理解を深 める講座・ 事業	24 事業	26 事業	26 事業	26 事業	25 事業	28 事業	27 事業	達成

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年 10 月 13 日付けで特別史跡に指定されました。令和元年度は台風や新型コロナウイルス感染症の影響により 67,632 人となり、平成 30 年度の 77,222 人と比べやや減少しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 加曽利貝塚の発掘調査や史跡整備を進めるとともに、新たな縄文体験の提供など来場者のニーズを踏まえた事業を積極的に実施して参ります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ゆかりの家・いなげの老朽化した電気配線等の更新については実施設計は完了したものの、工事については入札不調となり実施できませんでした。 旧検見川無線送信所では、屋上防水工事を平成 28 年度に実施したことにより、以後、雨漏りによる被害は発生していません。 市民ギャラリー・いなげでは平成 30 年 10 月から耐震改修工事を 2 か年継続事業で実施していましたが、令和 2 年 3 月に再開館しました。 主に台風 15 号発生時の強風により、加曽利貝塚や月ノ木貝塚等の史跡では多くの倒木や幹折れが発生したため、安全性を確保する上で必要となる伐採及び倒木撤去を実施しました。また、旧生浜町役場庁舎では、屋根瓦の剥がれ等の破損が発生したため、瓦の葺き直しなどの修繕を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆかりの家・いなげは、令和元年度での実施を予定していた電気設備工事を早期に実施するため、工事範囲や手法等の仕様を見直すことで再度の入札不調を回避するための対策を講じます。また、外壁等の老朽化については、地域有形文化財としての価値を損なうことが無いよう、劣化状況を注視しつつ、適切な修繕に努めます。 旧検見川無線送信所は、区画整理事業地内のため、再整備計画のスケジュールを勘案の上、建物の劣化状況を注視しつつ、今後の保存、活用を検討して参ります。また、検討に当たっては、ワークショップを開催し市民意見を集約して参ります。 市民ギャラリー・いなげでは、工事完了を踏まえ、安全のため同時に 7 人までとしていた入館制限を緩和し、公開事業を促進するとともに、イベント等の開催場所とするなど用途拡充を図り、活用していきます。 今後の台風被害を予防するため、近隣民有地等への影響を考慮し、緊急性の高い箇所から、樹木の剪定等を行います。
3	<ul style="list-style-type: none"> 加曽利貝塚博物館では、人気のある子ども向けの講座を中心に、埋蔵文化財調査センターとの連携事業も含め、開催回数を増やすなど昨年度より 2 事業多い 36 事業を実施しました。 郷土博物館では、市民向けの公開講座を実施するとともに、千葉大学と共催で千葉氏公開市民講座を実施しました。また、千葉氏の普及を図るためにパネル展「千葉氏入門 Q & A」を開催するなど事業の充実を図ることができました。 埋蔵文化財調査センターは、市内公共施設でのロビー巡回展など郷土史関連事業 8 事業に加え、加曽利貝塚博物館と連携した「加曽利貝塚現地説明会」など、縄文関連事業を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 加曽利貝塚博物館では、動物公園や県中央博物館、学校等と連携し、相互交流を伴う事業を展開して参ります。また、令和 2 年春に常設展示の一部をリニューアルし、より分かりやすい展示を目指します。ホームページに館長をはじめ、学芸員が担当するページを新たに開設し、貝塚や博物館の情報公開に努めます。Twitter アカウント等による迅速な情報発信に努めます。 郷土博物館では、魅力ある事業を展開していくうえで、その基礎となる調査研究を着実に進められるよう、専門的人材の確保、育成など体制の充実を努めて参ります。また、令和元年度にリニューアルしたホームページを活用し、郷土史についての情報を積極的に発信します。

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				
			H27 末	H30 末 (中間)	R3 末 (最終)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	進捗 状況
4	縄文文化調査研究の推進(※)	特別史跡加曽利貝塚の究明に向けた発掘調査	—	—	調査概報の刊行	—	—	—	調査研究実施	順調
5	特別史跡加曽利貝塚の魅力向上(※)	加曽利貝塚博物館の来館者数	—	—	100,000 人	—	—	77,222 人	67,632 人	遅れ

※ アクションプラン4「縄文文化調査研究の推進」とアクションプラン5「特別史跡加曽利貝塚の魅力向上」は、平成 30 年度末に行った中間見直しにより追加したアクションプラン。

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
4	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度から令和元年度の 3 か年で、南貝塚 700 m² の範囲について発掘調査を実施しました。それにより、加曽利貝塚は約 5～3 千年前の大規模な集落遺跡として知られていましたが、より新しい時期まで関東屈指の集落が存続していたことが明らかになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和 2 年度から令和 4 年度の 3 か年計画で新たな地点 825 m² について発掘調査に着手します。 平成 29 年度から令和元年度の調査成果について、令和 2、3 年度の 2 か年で整理作業を実施し、令和 4 年度に調査報告書を刊行します。
5	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は台風や新型コロナウイルス感染症の影響により 67,632 人となり、平成 30 年度の 77,222 人と比べやや減少しました。 縄文春まつり、秋まつり、ナイトミュージアムの継続的な開催や SNS 等を活用した情報発信により、市外からの新たな来訪者が増加傾向にあることがアンケート結果などから明らかになりました。 週末には来訪者が疑似発掘などの体験ができる「縄文体験プログラム」を実施しました。 平成 31 年 2 月に策定した「特別史跡加曽利貝塚ランドデザイン」に基づき、史跡整備の基本設計及び実施設計を行いました。 新博物館の基本計画策定に向け、諸室の構成等の検討を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな来訪者を獲得できるイベントや縄文体験プログラムを企画・実施します。 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、新たな生活様式に配慮した博物館運営に努めて参ります。 園路やサイン等の史跡の環境整備工事、北貝塚住居跡群観覧施設の改修工事、復元住居の新設等の史跡整備を行います。 新博物館について、展示・体験計画の追加検討を行い、基本計画を策定します。

2-2 市民ニーズに対応した学習機会の提供

施策の方針

- 急速に変化・多様化する現代社会において、多岐にわたる市民の学習ニーズに対応するため、幅広い分野にわたる学習機会を提供します。
- 科学・技術に関する講座・事業を通して、市民のライフスタイルに科学が溶け込む環境づくりを進めます。
- 様々な立場の市民が、生涯を通じて必要な知識・技能を身に付けられるよう、学び直しを支援します。
- 子どもから子育て世代、お年寄りまで、様々な世代のライフステージに応じた学習機会を提供します。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	当初	目標		各年度の実績				達成状況
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
6	公民館の講座の参加者の満足度	98.2%	99.0%	99.5%	98.5%	98.7%	98.4%	98.4%	×
		受講者アンケート							
7	「科学都市ちば」の認知度	38.6%	43.0%	50.0%	55.6%	56.7%	47.5%	47.0%	○
		※1	WEBアンケート (※2)						

※1 平成 27 年度末現状値は、平成 27 年 2 月に実施した「インターネットモニターアンケート」の結果より算出。

※2 平成 28 年度末より、調査方法を「インターネットモニターアンケート」から「WEB アンケート」に変更。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における課題や利用者のニーズを把握し、主催事業を実施したものの、前年度と同じ満足度となりました。 ・アンケートの回答数は、1,620件増加し、利用者の意見を広く聴取することができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題、利用者のニーズ、不満だった理由を的確に把握したうえで、実施時期等の検討をするとともに、講座内容や実施回数を充実し、さらなる満足度の向上を図ります。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な広報や科学館における講座・企画展・館外でのワークショップ、講座の拡充などを実施しましたが、前年度と比較し、0.5ポイント下降しました。 ・平成27年度末現状値から上昇していますが、ここ数年では下降傾向であるため、さらなる広報の強化に努める必要があると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県科学フェスタメインイベントや科学館事業の充実はもちろんのこと、未来の科学者育成プログラム等、児童生徒向けの事業の充実を図り、「科学都市ちば」の認知度の向上を図ります。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、中央図書館、文化振興課、スポーツ振興課、教育改革推進課、高齢福祉課

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		実績				進捗 状況
			H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
1	現代的課題 学習事業の 実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
2	文化・芸術学 習事業の実 施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
3	スポーツ・レク リエーション 推進事業の 実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	「(仮称)瑞穂 情報図書セン ター」の整備	「(仮称)瑞穂 情報図書セン ター」の 整備	検討	H29年3月供 用開始	供用	H29年3月 28日供用 開始	供用	供用	供用	達成
5	科学関連学 習事業の実 施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
6	未来の科学 者育成プログ ラムの充実	未来の科学 者育成プログ ラムの実 施(ジュニア 講座受講者 数)	実施	拡充	拡充 (100人) (※1)	拡充	実施 (受講者 数減)	71人	159人	達成
		ロボット工 学講座の実 施(中高生 対象講座) (※2)	—	—	4講座	—	—	2講座	3講座	順調

※1 平成30年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※2 アクションプラン6「未来の科学者育成プログラムの充実」の「ロボット工学講座の実施」は、平成30年度末に行った中間見直しにより追加した項目。

生涯学習振興課、中央図書館、文化振興課、スポーツ振興課、教育改革推進課、高齢福祉課

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、防災、医療・健康、国際理解、高齢者関係、家庭教育など様々なテーマで講座を開催しました。 公民館では、情報（ICT）・防災・環境・健康・消費生活・歴史・国際交流など、現代的な課題に関する講座を実施し、社会の中で自立して、生涯にわたって生きる力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に着けた人材の育成に努めました。 図書館では、毎年12月にビジネス支援講座や市民講座を開催し、受講者アンケートでは概ね好評を得ています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域課題や利用者ニーズを把握し、多くの市民が参加しやすい学習機会を提供します。
2	<ul style="list-style-type: none"> メディア芸術振興事業等の市民が主体となるような事業や子ども・若者が文化芸術に親しむことができる事業の実施を意識し、また、チバリアフリーアートプロジェクト等のオリンピック・パラリンピックを見据えた文化事業の実施を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> チバリアフリーアートプロジェクト等のオリンピック・パラリンピックを見据えた文化芸術事業やメディア芸術振興事業等の子ども若者向け文化芸術事業を継続して実施していきます。
3	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校を対象としたトップスポーツチームによる学校訪問事業や、様々なスポーツ教室の開催、地区体育祭やスポーツ・レクリエーション祭の開催などを実施することにより、世代やニーズに応じたスポーツ施策を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進計画に基づき、引き続きライフステージに応じた各種スポーツ施策の取組みを継続します。
4	<ul style="list-style-type: none"> 「(仮称) 瑞穂情報図書センター (現：みずほハスの花図書館)」は、寛ぎながら読書を楽しめるスペースの設置に加え、自動貸出機、タブレット端末及びデジタルサイネージ等のICT機器を活用したサービスの導入など、新たな取組を行う図書館として、花見川区役所1階に整備を進め、平成29年3月に供用を開始しました。なお、みずほハスの花図書館の効果検証結果については、第3次実施計画事業「新たな図書館計画 (現：千葉市図書館ビジョン2040) の策定」の基礎資料として活用しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 開館後の利用統計を通じ、新たな図書館のモデル事例として検証を継続し、今後の施設整備を進める際のデータとして活用します。
5	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、子どもを対象にした講座を2講座、県内の高等専門学校と連携したイベントを1件、シニアを対象とした講座を1講座実施しました。 公民館では、幅広い年代に向けて、科学関連学習講座を86講座実施しました。 科学館では、館内の講座や企画展の他、館外でのワークショップなどのアウトリーチ活動、公民館や放課後子ども教室への講師派遣などにより、日常に科学が浸透する取組を実施しています。平成30年度より小学校への科学館出張授業「おもしろ教室」を始め、平成30年度は年間で60回、令和元年度は年間130回実施し、受講児童数はのべ4,166人となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館や生涯学習センター、科学館などで、科学都市戦略事業方針に基づき、科学関連学習事業を継続して実施します。
6	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア講座は電子申請のほか、平成30年度の秋より市内公立小学校5・6年生全員にチラシを配付したことにより、定員を上回る応募が続ぎ、受講者は159人となりました。 ロボット工学講座は、千葉大学・千葉工業大学の協力により3事業実施し、延べ61人の参加となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア講座では、昨年度同様市内公立小学校5・6年生全員に個別にチラシを配付し、電子申請でも受け付けます。 ロボット工学講座は、新規に1講座開設し、令和2年度は4講座実施する予定です。

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				進捗 状況
			H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
7	キャリア教育の推進	キャリア教育の推進	検討	実施	実施	実施	実施	実施	実施	順調
8	放課後子ども教室の推進	実施日数	21.2日/校 (H26)	従来型 19.3日/校 活動支援型 25.0日/校 (※1)	従来型 22.0日/校 活動支援型 28.0日/校 (※1)	19.8日/校	19.8日/校	従来型 17.9日/校 活動支援型 25.9日/校	従来型 16.9日/校 活動支援型 28.0日/校	遅れ
		活動支援実施校数(※2)	—	—	17校	—	—	17校	17校	達成
		一体型事業実施校数(※2)	—	—	18校	—	—	1校	6校	順調
		放課後子どもプラン策定(※2)	—	—	策定	—	—	策定	策定 (H30の実績再掲)	達成
9	子ども読書活動の推進	読書習慣のある児童生徒の割合(小学5年生)	45.2% (H26)	49.0%	52.5%	46.0%	48.1%	44.0%	44.1%	遅れ
		読書習慣のある児童生徒の割合(中学2年生)	46.9% (H26)	49.0%	52.5%	44.4%	44.5%	43.0%	— (※3)	遅れ
		1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合(小学生)	1.1% (H26)	0.9%	0.8%	0.6%	0.4%	0.3%	0.6%	達成
		1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合(中学生)	7.9% (H26)	6.4%	5.5%	2.8%	1.6%	1.3%	0.9%	達成
10	青少年教育・少年教育事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調

※1 平成30年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※2 アクションプラン8「放課後子ども教室の推進」の「活動支援実施校数」、「一体型事業実施校数」、「放課後子どもプラン策定」は、平成30年度末に行った中間見直しにより追加した項目。

※3 休校措置により「千葉県学力状況調査」を実施していないため、R1末実績値は把握できない。

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
7	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、子ども向けを2講座、シニア・女性など成人を対象に6講座実施しました。 小中学校では、業界団体や産業系専門高校の学校訪問を実施し、進路指導学習の充実を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、引き続き関連機関とも連携し、実施します。 小中学校では、今後のキャリア教育の課題等について検討するとともに、作成した教員用ガイドブック等を活用し、キャリア教育の推進を図ります。
8	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に放課後子どもプランを策定し、放課後施策を総合的・計画的に進めています。 従来型は、新型コロナウイルス感染拡大により活動が縮小されたため、実施日数が減少しました。また、安全管理やプログラム開発など、地域の負担が大きいため実施日数を増加する上での課題となっています。 活動支援型は対象校17校を希望制により決定することで、真に必要とされる支援を行いました。 一体型事業は、計画通り1校から6校に拡充し、「安全・安心な居場所」と「学びのきっかけ」の提供に努めています。令和元年度に実施したアンケートでは、保護者、児童ともに7割以上の利用者から「満足」との回答が得られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合コーディネーターによる活動支援を継続するとともに、引き続き対象校は希望制により決定することで、真に支援を要する学校に必要な支援を行い、実施日数の増加を図ります。
9	<ul style="list-style-type: none"> 「ファミリーブックタイム事例集」や「どくしょてちょう」の配布、子ども読書まつり実施などにより、子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるように支援し、読書環境の整備へ向けた取組みを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動の推進を図るため、「団体貸出」や「セット貸出」により図書資料の有効活用を図るとともに、「図書館見学」、「おはなし会」、「調べ学習」など体験を通じた学びを支援していきます。 また、令和3年3月策定予定の第4次子ども読書活動推進計画の中で図書館システムを通じた学校との連携について検討していきます。
10	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、主に小学生を対象に、体験を中心とした講座を19講座実施しました。また、青少年の日フェスタ、子ども読書まつりを実施しました。 公民館では、学校や家庭では体験できない体験学習・工作等の学習講座を380講座実施しました。 南部青少年センターでは、学年の異なる児童・生徒に体験学習の場を提供し、異年齢の交流を通して青少年の健全な育成を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用者ニーズを把握しつつ、多様な体験学習機会の提供を継続的に実施します。

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				
			H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	進捗 状況
11	家庭教育 支援事業 の実施	「子育てマ マのおしゃ べりタイ ム」の実施 館数	21 館 (H26)	28 館	28 館	22 館	22 館	22 館	22 館	遅れ
		「子育てマ マのおしゃ べりタイ ム」の延べ参加 者数(※1)	—	—	2,500 人	—	—	1,925 人	1,677 人	遅れ
12	高齢化社 会に対応 した学習 機会の提 供	生きがい づくり・仲 間づくり、 健康・福祉 に関する 講座の開 催	実施	拡充	拡充	実施	実施	拡充	拡充	順調
13	公民館主催 講座の実 施・拡充	主催講座の 実施・拡充 (※2)	—	—	900 講座	—	—	972 講座	1,085 講座	達成

※1 アクションプラン 11「家庭教育支援事業の実施」の「子育てママのおしゃべりタイム」の延べ参加者数は、平成 30 年度末に行った中間見直しにより追加した項目。

※2 アクションプラン 13「公民館主催講座の拡充」は、平成 30 年度末に行った中間見直しにより追加したアクションプラン。

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
11	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育の支援や子育ての不安や悩みを解消するため、「子育てママのおしゃべりタイム」を公民館で実施しました。当該事業の担い手である子育てサポーターや地域の子育て世代のニーズに応じ、実施回数や場所を調整しています。少子化や就労家庭の増加により参加者数は減少しており、実施館数の増加には至っていません。令和元年度は自然災害や新型コロナウイルス感染拡大により活動が縮小され、実施回数・参加者数は減少しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、人材の確保などの実施体制を強化しながら、地域の子育て世代のニーズに応じ、実施回数や場所を調整していきます。また、子育てサポーター間で情報交換をし、よい取組みを共有します。
12	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、高齢者の生きがいづくりに関する講座を 3 講座、その他、健康維持、介護、キャリア支援、デジタルディバイトの解消など、利用者ニーズに応じた新たな講座を開催しました。 公民館では、健康セミナーや終活講座などの高齢化社会に対応した講座を 77 講座実施しました。 いきいきプラザ・センターの高齢者福祉講座では、年間延べ 4 万人以上の高齢者が受講し、健康増進や生きがいのある生活を送るための役割を担っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も社会の変化を注視しながら、利用者ニーズを把握し、継続的な学習機会の提供に努め、引き続き高齢者の健康増進や生きがいある生活が送れるよう支援します。
13	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い学習ニーズに応えるため、関係機関と連携・協力をし、各公民館で 1～2 講座を増やすことに取り組み、様々な講座を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用者ニーズを把握し、学習機会の提供に努めていきます。

3 学びを生かしたコミュニティづくり

3-1 地域の担い手となる人材育成

施策の方針

- 地域における学習活動の活発化を図るため、専門的知識を持つリーダーをはじめ、地域・団体活動のリーダー、ボランティア等の人材を育成します。
- 講座などの学習活動をきっかけとして仲間づくり、絆づくりを進め、学習活動の担い手の育成につなげます。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	当初	目標		各年度の実績				達成 状況
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
8	市民のボランティア活動・地域活動への参加状況	16.4% ※1	23.0%	30.0%	21.9%	13.5%	16.7%	16.1%	×
WEBアンケート(※2)									

※1 平成 27 年度末現状値は、平成 26 年 9 月に実施した「インターネットモニターアンケート」の結果より算出。

※2 平成 28 年度末より、調査方法を「インターネットモニターアンケート」から「WEB アンケート」に変更。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
8	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターや公民館でボランティアやリーダーの育成講座を実施しました。 ・前年度と比較し、0.6 ポイント下降したものの、「魅力あるちらし作り」講座など団体活動の活性化を目的としたことにより受講者数は増加しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズを踏まえボランティアやリーダー育成講座の充実を図るとともに、ボランティア等の活動についての幅広い周知や、活動場所の発掘など、学習成果を地域に還元するしくみづくりに取り組みます。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、高齢福祉課等

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				進捗 状況
			H27 末	H30 末 (中間)	R3 末 (最終)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
1	団体・グループ活動のリーダーの養成・育成	指導者養成研修 * 延受講者数	333 人 (H26)	370 人	400 人	389 人	364 人	347 人	316 人	遅れ
2	ボランティアの育成	ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数	1,634 人 (H26)	1,850 人	2,000 人	1,635 人	1,697 人	1,743 人	1,834 人	遅れ
3	家庭教育支援事業の実施(一部再掲)	家庭教育支援チーム数	2 チーム (H26)	4 チーム	4 チーム	2 チーム	2 チーム	2 チーム	2 チーム	遅れ
		子育てサポーター人数	33 人 (H26)	42 人	42 人	36 人	39 人	35 人	37 人	遅れ
4	高齢化社会に対応した学習機会の提供(一部再掲)	健康・福祉・介護予防等に有用な実践的講座の開催	実施	拡充	拡充	実施	実施	拡充	拡充	順調

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、リーダーとしての資質向上や育成につながる内容の研修事業を展開しました。団体活動に必要なコミュニケーション能力の向上や広報の方法等多くの受講者を集めることができる内容ではないことや、PTA役員や放課後子ども教室コーディネーター等の受講対象者が限定される事業もあるため、受講希望者は目標値に至らなかったものの、団体活動に重要な研修の提供に努めました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初実施予定講座のうち、1講座が中止となったことも影響しています。 公民館では、団体・グループ活動のリーダーの養成・育成講座を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、受講者のニーズを把握して、指導者として必要な資質を高めるための研修を実施します。また、団体活動活性化に必要とされるコミュニケーションのとり方に目的を置くなど、活動に関わる方が積極的に参加できる研修を実施します。 公民館では、引き続き、地域活動に役立つ講座を実施し、指導者養成に取り組んでいきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者数は着実に増加してはいますが、高齢化や団体の活動停止等による減少の影響もあり、大幅な増加は困難となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、合同説明会の開催等を通して、他の施設・団体が所管するボランティア等との連携・協働を図るとともに、ボランティアセンターの広報活動の充実に努めます。
3	<ul style="list-style-type: none"> 子育ての悩みなどを相談できる場所として認知されてきており、今後も継続的な需要が見込めます。また、家庭教育支援チームは、地域団体（育成委員会やPTAなど）との会議や共催で行う学習講座なども行っており、地域とのつながりを深めつつ地域人材を育成しています。就労されている方の負担などが理由で、チーム数やサポーター人数は目標値に至っておらず、特に家庭教育支援チームは臨床心理士や保育士等で構成されるため、人材の確保が課題となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材の確保については、引き続き、公民館や学校の協力を得て、子育てサポーターや青少年育成委員等の既存の家庭教育関連団体に適切な人材の紹介を呼びかけるとともに、チームが開催するイベント等についてもより一層の広報PRに努め、参加者を含めより幅広く参画を働きかけていきます。
4	<ul style="list-style-type: none"> 公民館では、健康セミナーや終活講座などの高齢化社会に対応した講座を実施しました。 いきいきプラザ・センターの高齢者福祉講座では、年間延べ4万人以上の高齢者が受講し、健康増進や生きがいのある生活を送るための役割を担っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、高齢化社会に対応した講座を実施するなど、高齢者の健康増進や生きがいがある生活が送れるよう支援します。

3-2 学習成果の活用機会の提供

施策の方針

- 学習の成果を社会・地域に還元できるよう、様々な活用方法や機会を提供します。
- ボランティア等が市民の学習ニーズに合わせて活躍できるよう、支援が必要な者とのマッチングや活動紹介等の機会を確保します。
- ボランティア等が自ら積極的に活動・情報発信できるよう、拠点となる場所を確保します。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	当初	目標		各年度の実績				
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	達成 状況
9	年2回以上学習成果を地域に還元する団体の割合	43.7% ※1	68.0% ※2	71.0% ※2	— ※3	— ※3	67.6%	— ※3	—
生涯学習関係団体アンケート									

※1 平成27年度末現状値は、平成26年11月に実施した「生涯学習関係団体アンケート」の結果を基に算出。

※2 平成30年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

※3 「生涯学習関係団体アンケート」は各目標年度に実施のため、平成28・29・令和元年度は未実施。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
9	・施設ボランティア、サークル活動での学習活動参加者による講座の開催や、ボランティアを地域につなげるコーディネートを通じて、学習の成果を地域に還元する機会を提供しました。	・引き続き、学習の成果を地域に還元する機会や、ボランティアと市民のニーズとのマッチングなどの施策を進めます。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、文化財課、中央図書館等

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				
			H27 末	H30 末 (中間)	R3 末 (最終)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	達成 状況
1	市民自主企画講座や施設ボランティアによる学習機会の提供	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
2	学習成果の発表機会の提供	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターでは、市民自主企画講座の募集や施設ボランティアによる講座の開催など、市民が学習成果を還元する機会を確保しました。 市民自主企画講座：17 講座 施設ボランティアによる講座：35 講座 施設ボランティアによる相談会等：95 回 ・公民館では、サークル設立につながる主催講座を開催し、サークル活動での学習成果を参加者が講師となって講座を開催する等、学習成果の還元につながる事業を実施しました。 ・科学館では、ボランティアによる企画講座を 18 回実施し、473 人が参加しました。多くの講座が企画されていた 3 月に新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館となったことにより、前年度の 50 回 894 人を下回りました。 ・加曽利貝塚博物館では、博物館及び野外観覧施設の解説、イベント等での縄文体験など、ボランティアガイド延べ 3,209 人が活動に参加し、21,228 人に対して展示解説や各種体験等を行いました。 ・郷土博物館では、3 階常設展示「千葉氏の興亡と妙見信仰」を中心に、ボランティアによる展示解説を実施しています（登録者数 73 名）。令和元年度は延べ 3,574 回、7,484 人に対し解説を行いました。 ・図書館では、育児サークル・保育施設・学校等の読み聞かせへのボランティア派遣を実施しました。 活動場所：73 か所 活動回数：108 回 活動人数：294 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民自主企画講座や、ボランティアによる展示解説・案内・読み聞かせを継続して実施します。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターでは、学習団体が学習成果を発表する機会を確保するため、「まなびフェスタ」を開催しました。また、「ボランティアフェア」を開催し、生涯学習ボランティアによる自らの活動紹介や学習成果の発表の場を提供しました。 ・公民館では、クラブ・サークル連絡協議会による発表の場として、文化祭を実施しました。学習への意欲をより高め、生涯学習によるコミュニティづくりに寄与しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習成果の発表の場を提供し、市民による自主的な学習活動の普及・啓発を支援します。

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				
			H27 末	H30 末 (中間)	R3 末 (最終)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	達成 状況
3	青少年交流 事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	ボランティア センター等 におけるコ ーディネー トの実施	ちば生涯学 習ボランテ ィアセンタ ーにおける コーディネ ート	198 件 (H26)	230 件	260 件	231 件	221 件	234 件	262 件	達成
5	生涯学習ボ ランティアの 活動場所の 提供	生涯学習セ ンター内に ボランティ ア活動スペ ースを提供	検討	実施	実施	実施	実施	実施	実施	順調

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
3	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターでは、青少年団体に生涯学習施設を貸し出し、青少年の自主的な活動及び異世代交流による健全育成を図りました。また、夏祭り実施時に学生ボランティアとして活動してもらったり、大学生サポーターとして一部の講座運営に関わってもらったりしました。 公民館では、青少年団体へ施設を貸し出すことにより、青少年の自主的な活動を促しました。 南部青少年センターでは、学年の異なる児童・生徒に体験学習の場を提供し、異年齢の交流を通して青少年の健全な育成を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会性やコミュニケーション能力、感性などを育む体験の場を提供し、青少年の健全育成を支援します。
4	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設・団体からの依頼が着実に増加しており、順調に推移しています。また、ボランティアの派遣について潜在的なニーズを見込むことができる小・中学校や公民館へ直接事業説明を行い、広報活動にも努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア先生紹介ミニ講座等で、活動の様子をわかりやすく伝え、新しい利用者の開拓に努め、件数を増やしていきます。
5	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ボランティアが自ら積極的に活動・情報発信できるよう、生涯学習センター内に、ボランティアの活動場所となるスペースを提供しました。調査・資料室については、書棚の配置を変更し、多目的な活動スペースを作りました。また、その活動スペースでちば生涯学習ボランティアセンター登録者によるボランティア先生紹介ミニ講座を多数実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・資料室については、施設改修を実施し、ちば生涯学習ボランティアセンターとしての機能を充実させていきます。ボランティア先生紹介ミニ講座のホームページ映像を充実させるなど充実を図っていきます。

3-3 市民の参加・協働による学習活動の推進

施策の方針

- 地域が自主的に取り組む学習活動を支援し、地域課題を自ら解決するコミュニティづくりを目指します。
- 団体活動の後援及び情報発信の支援等を行います。
- 地域で活動する団体相互の連携を支援します。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	当初	目標		各年度の実績				達成状況
		H27 末	H30 末 (中間目標)	R3 末 (最終目標)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	
10	住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合	24.3% ※1	27.0%	30.0%	— ※2	28.9%	31.8%	31.2%	◎
WEBアンケート(※3)									

※1 平成 27 年度末現状値は、平成 27 年 1 月に実施した「市民 1 万人のまちづくりアンケート」の結果を基に算出。

※2 「市民 1 万人のまちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施。

※3 「市民 1 万人のまちづくりアンケート」の質問内容削除により、平成 29 年度から「WEB アンケート」により調査。

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
10	・公民館運営審議会や運営懇談会などで議論された地域課題を講座に反映させるなどしましたが、前年度と比較し、0.6 ポイント下降しました。実績値は減少したものの、最終目標は上回っており、高い水準を維持しています。	・公民館運営審議会や運営懇談会の議論の活性化をはじめ、地域の団体等と連携して主催事業を実施するなど、地域課題の解決に取り組んでいけるよう支援を続けます。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、学事課、健全育成課

No.	事業名	新規・拡充 項目、継続	当初	目標		各年度の実績				
			H27 末	H30 末 (中間)	R3 末 (最終)	H28 末	H29 末	H30 末	R1 末	達成 状況
1	多様な主体による学習活動の推進	公民館、生涯学習センターにおいて多様な主体と連携して実施した事業数	103 事業 (H26)	115 事業	120 事業	114 事業	109 事業	131 事業	141 事業	達成
2	公民館を拠点とした地域連携の推進	公民館の利用を促し、地域住民のつながりを深める	検討	実施	実施	実施	実施	実施	実施	順調
3	地域交流・多世代交流事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	学校支援地域本部やコミュニティ・スクール等の推進	連携組織の設置	学校支援地域本部 小：2校 中：1校	学校支援地域本部 小：16校 中：10校 (※)	学校支援地域本部 小：34校 中：22校 コミュニティ・スクールのモデル実施 (※)	学校支援地域本部 小：4校 中：2校	学校支援地域本部 小：10校 中：6校	学校支援地域本部 小：16校 中：10校	学校支援地域本部 小：23校 中：13校	順調
5	健全育成活動の推進	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調
6	特別教室等の開放	継続しつつ、類似事業への移行を進める (※)	継続	継続しつつ、類似事業への移行 (※)	継続しつつ、類似事業への移行 (※)	継続	継続	継続	継続	順調
7	社会教育関係団体の育成	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	順調

※ 平成 30 年度末に行った中間見直しにより、目標値を変更。

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人や地域団体などと連携し、生涯学習センターでは 91 講座、公民館では 50 講座を実施しました。様々な団体と連携することで、多彩な事業を実施することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人をはじめ、大学、民間企業、地域団体、生涯学習施設で活動している団体等と連携し、地域課題の把握に努め、学習内容と機会の充実に努めます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館クラブ・サークルや地域住民の方を講師とした講座を実施しました。また、地域団体を通じた講座受講者募集を行うなど、地域との連携に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、公民館を拠点とした地域連携として、地域住民と連携した講座を推進していきます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館において、伝承遊びなどの講座を 7 事業実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域交流事業や伝承遊び講座等の多世代交流事業を実施していきます。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は、予定通り新たに学校支援地域本部を 10 校設置することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度も前年同様、新たに 10 校での設置を予定しています。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区（全 54 中学校区）の青少年育成委員会において、危険箇所の点検、レクリエーションやスポーツ活動、研修会、環境浄化活動や補導点検、あいさつ運動、地区の環境整備活動等を行うことで地域の青少年の健全育成につながっています。 ・活動にあたっては、内閣府が提唱する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」（7 月）、「全国子ども・若者育成支援強調月間」（11 月）、さらには「青少年を健全に育てる運動」などの趣旨を生かしながら、地域の青少年の健全育成を図りました。 ・平成 20 年の「青少年の日（毎年 9 月第 3 土曜日）」及び「家庭・地域の日（毎月第 3 土曜日とその翌日曜日）」の制定を機に、それぞれの日を中心とした時期に活動を集中し実施しました。「青少年の日」には毎年「青少年の日フェスタ」を実施し、青少年と家庭・学校・地域・行政がつながりを持ち、コミュニケーション力を高め、青少年の居場所づくりの推進にもつながっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補導件数に関しては年々減少傾向にあります。一方で、インターネットや SNS などの情報ツールの急速な普及やスマートフォンなどの携帯端末の所持率の増加、人間関係の希薄化等、青少年を取り巻く環境が年々大きく変化し、青少年が関わったり、巻き込まれたりする事件・事故が増加しています。地域の中核となって青少年の健全育成に大きく寄与している青少年育成委員会活動への支援を継続していくとともに、より一層の活性化を促していきます。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により活動が縮小され、利用人数は 3,653 人から 2,789 人に減少しました。 ・学校施設開放事業は謝礼金等による予算の制約がないことから、学校施設の更なる活用が期待できますが、安全管理員の配置がないことや光熱水費の実費徴収等、利用者のデメリットもあるため移行には至りませんでした 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設開放事業に移行します。 令和 3 年 4 月 瑞穂小学校移行予定
7	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターでは、PTA や放課後こども教室コーディネーター等を対象とした講座を 3 講座実施しました。 ・公民館では、利用者団体等を対象とした講座を 14 講座実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も社会教育団体を対象とした講座を継続して実施していきます。